

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会 議 の 名 称	平成 29 年度 第 4 回 枚方市食育推進計画審議会
開 催 日 時	平成 29 年 11 月 30 日 (木) 14 時 00 分～15 時 10 分
開 催 場 所	枚方市市民会館 2 階 第 6 集会室
出 席 者	春木敏会長、中村奈緒美副会長、有川智博委員、井上努委員、 甲斐清子委員、金崎由紀恵委員、田中絹代委員、谷勲委員、 西谷彩子委員、東尾康子委員、松本容子委員
欠 席 者	宇佐見美佳委員
案 件 名	1. 第 3 次枚方市食育推進計画（答申案）について 2. その他
出された資料等の 名 称	資料 1. 第 3 次枚方市食育推進計画（答申案） 資料 2. 第 3 次枚方市食育推進計画（案）概要版 参考資料 第 3 次枚方市食育推進計画における指標と目標値 （前回の審議会資料）
決 定 事 項	本審議会以降の修正については、春木会長と中村副会長の 一任にて最終確認のうえ、後日答申をいただくこととなった。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の 別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0 人
所 管 部 署 (事 務 局)	健康部 健康総務課

審議内容	
春木会長	<p>定刻となりましたので、ただ今より、枚方市食育推進計画審議会を始めさせていただきます。</p> <p>始めに、事務局から本日の委員の出席状況及び傍聴希望者について、報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の委員の出席状況は、委員12名中10名のご出席をいただいておりますので、枚方市附属機関条例第5条第2項に基づき、会議が成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>また、本日の傍聴希望者はございません。</p> <p>以上でございます。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。では、早速、案件に入らせていただきます。</p> <p>案件1「第3次枚方市食育推進計画（答申案）」について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>説明に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、次第がございまして、その後に、資料1として「第3次枚方市食育推進計画（答申案）」の冊子。その次に、資料2としまして、「第3次計画（案）」の概要版。その次に、参考資料としてA3サイズを折り畳んだものとなっております。なお、資料1の46ページですが、差し換えがございまして、差し換えのページを1枚、挟み込んだ形にしております。</p> <p>皆様お手元にありますでしょうか。過不足ございませんでしょうか。</p> <p>それでは、案件1「第3次枚方市食育推進計画（答申案）」について、説明させていただきます。</p> <p>前回の審議会でもいただいたご意見や庁内会議で出た意見を踏まえまして、修正した箇所を中心に説明させていただきます。</p> <p>なお、ご意見をいただく中で、一部表現や言い回しを修正しているものもございしますが、内容が変わるものではございませんので、その点の説明は省略させていただき、内容に変更があった箇所、資料の中で網掛けをしている部分になるのですが、その網掛け部分を中心にご説明させていただきます。</p> <p>まず、資料1をご覧ください。1枚めくっていただきまして、目次についてですが、第3章「第3次計画の基本的な考え方」の冒頭に、「1. 枚方市食育推進計画の変遷」と「2. 第3次計画の特長」を新たに追加しております。これは、庁内会議にて、これまでの計画の変遷と、第3次計画の特長を記載したほうが分かりやすいのではないかという意見が出たことにより、新規に作成したページでございます。</p>

それでは、そのページについて説明させていただきますので、27ページをご覧ください。

27ページ、第3章「第3次計画の基本的な考え方」の「1. 枚方市食育推進計画の変遷」についてです。こちらを読み上げます。

食育とは、食育基本法では、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」こととされています。

国の第2次基本計画では、主に「実践」に重点がおかれていましたが、第3次基本計画では、個々人が健全な食生活を送るように意識し実践するだけでなく、生産から食卓までの食べ物の循環や生涯にわたる食の営みにも改めて目を向け、関係者が多様に連携・協働して、これまでの個々の取り組みである「実践」の環をつなぎ、一層広げていくことが大切とされています。

枚方市食育推進計画の基本理念として、第1次計画では、子どもから大人まで、一人ひとりが「食」に関する正しい知識と「食」を選択する判断力を身に付けること、また、「食」を大切にすることを伝えること等、主に『周知』に重点を置いていましたが、第2次計画では、「生涯にわたり健全な食生活を実践する」、「ネットワークを築きながら市民運動としての食育の推進に取り組む」とあるように、『周知』の次の段階として『実践』に重点を置いていました。第3次計画では、第2次計画での評価と課題を踏まえ、食に関する課題の多い「若い世代を中心とした食育の推進」や、生活習慣病予防の観点を含む「健康寿命の延伸につながる食育の推進」を基本方針に掲げるとともに、コミュニケーションを図りながら食の知識やマナーの享受が期待できる「共食」や、食の循環を理解することで自らの食が自然の恩恵に成り立っていることを認識し、食べ物に対する感謝の念を育むことにつながる「農業体験」を新たに加えるなど、『実践の環（わ）を広げる』ことに重点を置いた計画としています。

その下に、イメージ図を記載しております。

次に、「2. 第3次計画の特長」についてです。こちら資料を読み上げます。

第2次計画の評価と課題から、若い世代は、食育に関心が低く、食育を実践している人も少ないこと、また、健康であるが故に食の大切さを感じていないことが顕著であったため、第3次計画では「若い世代を中心とした食育の推進」と、あわせて、食育の観点から、市民の健康づくりや生活習慣病予防等に取り組み、市民の健やかで心豊かな生活の実現を目指す「健康寿命の延伸による食育の推進」を、新たに基本方針に掲げ、指標の目標達成に向けた取り組みを実施することで、若い世代に対する食育推進及び健康寿命の延伸につながる食育を推進します。また、本計画から新たに、「誰かと共に食事をとること（共食）」について取り入れ、「共食」を通じて、食事の楽しさやおいしさを実感するだけでなく、

食事のマナーや食に関する知識を習得する機会につなげることを目的に、啓発等の取り組みを推進します。

さらに、近年、食の欧米化が生活習慣病の原因となっていることに伴い、米を主食に一汁三菜を基本とする栄養バランスに優れた日本型食生活の良さが見直されていること、米飯食のメリットや味覚・食習慣は子どもの頃に形成されること等を踏まえ、学校給食を通じて、米を中心とした食習慣の形成や日本の伝統的な食文化への関心を深めることが重要であるため、「小学校給食での米飯率の向上」を新たに取り入れています。

また、第2次計画から継続した取り組みである、枚方市が独自に作成している食に関する基礎的な問題集「ひらかた食育Q&A」について、対象者を幼児から高齢者まで拡充するとともに、各ライフステージに応じた内容に改訂することで、食育に関する情報発信を行い、ひいては食育に関する基礎知識を有する人の増加を目指します。

なお、歯育について、第2次計画では、「歯科健康診査を受けている人の増加」を指標とし、歯科口腔機能の維持・発達を目的としていましたが、これらについては、平成28年3月に策定した枚方市歯科口腔保健計画において推進することとし、第3次計画では「健康寿命の延伸」という観点から、肥満につながる早食いなど、噛み方や食べる速さに着目し、生活習慣病予防を目的とした指標「ゆっくりよく噛んで食べる人の増加」に変更します。

以上、この2つの項目を今回から新たに追加し、この後は前回までと同様、計画の体系、基本理念や基本目標の説明へと続く構成に変更いたしました。

次に、30ページをご覧ください。

「4. 基本理念について」ですが、これまでは、冒頭に食育の定義と国の基本理念についての記述があり、その後、枚方市の基本理念の記述がありましたが、庁内会議にて、枚方市の基本理念の考え方もっと詳しく記載した方が良いのではないかという意見がありましたので、食育の定義と国の基本理念についての記述を、先ほどご説明いたしました「1. 枚方市食育推進計画の変遷」の冒頭に移動し、枚方市の基本理念の考え方のみの記述に特化するとともに、内容をより分かりやすいものとなるように修正いたしました。また、基本理念の中に「市民運動」という表現を用いていましたが、本市では、主に「市民活動」という表現を使用していたことから、「市民活動」に表現を改めております。では、基本理念の記述についても、読み上げます。

本市では、市民一人ひとりの食生活における食育の推進は、個人や家庭で担う役割が大きいと考え、一人ひとりが「食」に対する正しい知識と「食」を選択する判断力を身につけ、主体的に食育を推進し、生涯にわたって、健全な食生活が実践されることを目指します。

また、市民の健康寿命の延伸を目指すことで、子どもから高齢者まで全ての市民が健やかで心豊かな生活を実現することは、食育の観点から

も、優先的に取り組むべき課題の一つと考えます。このことから、生涯を通じた各ライフステージによって、食に関する課題や目指す姿は様々であることを踏まえ、ライフステージごとの特徴や課題に応じた食育を推進します。

しかしながら、少子高齢化や核家族化、ひとり親世帯の増加等、社会環境の変化をはじめとする様々な要因から、個人や家庭の努力だけでは、望ましい食生活を実現することが困難な状況です。そのため、家庭・保育所（園）・幼稚園・認定こども園・学校・地域・生産者等、様々な団体が相互に連携し、ネットワークを強化しながら、個々の取り組みである「実践の環（わ）」が一層広がる食育推進に取り組みます。

以上のことから、第3次枚方市食育推進計画の基本理念を次のとおりとします。

「子どもから高齢者まで、一人ひとりが「食」に関する正しい知識と「食」を選択する判断力を身につけ、生涯にわたり健康寿命の延伸につながる健全な食生活を実践するとともに、家庭・保育所（園）・幼稚園・認定こども園・学校・地域・生産者等が相互に連携し、ネットワークを築きながら市民活動としての食育の推進に取り組む。」と修正をしております。

次に、36ページをご覧ください。

「6. 基本方針」についてですが、基本方針2「健康寿命の延伸につながる食育の推進」の説明について、本市の課題を踏まえ、より分かりやすいものとなるよう修正いたしましたので、こちらも読み上げます。

健康づくりの推進や生活習慣病の発症・重症化の予防により市民の健康寿命の延伸を目指し、子どもから高齢者まで全ての市民が健やかで心豊かな生活を実現することは、食育の観点からも、優先的に取り組むべき課題の一つです。

本市においても、高齢化が進んでいるとともに、生活習慣病の発症・重症化や要介護認定者の増加が懸念されることから、疾病予防と健康増進、介護予防などによって、健康寿命の延伸が求められています。

生活習慣病の発症・重症化の予防には、日頃から、栄養バランスの整った望ましい食事を認識し、実践することが大切です。食事などの生活習慣が大きな要因となるメタボリックシンドローム・低栄養の予防や改善に向けた食育を推進します。

また、生涯にわたって健全な食生活を実践するためには、歯科口腔機能が十分に発達し、維持されることが望まれます。咀嚼力が低下すると、食品選択や栄養摂取状況などにも影響を及ぼし、その結果、生活習慣病や低栄養につながる恐れがあります。このため、生活習慣病予防の観点から、噛み方や食べる速さ等に着目した歯と口の健康づくりを通じた食育を推進します。

さらに、健全な食生活の実践に当たっては、食品の選び方や適切な調理・保存方法、消費（賞味）期限、原材料、添加物、アレルギー等につ

いて基礎的な知識を持ち、その知識を踏まえて市民自らが正しい食品選択を行うことも重要です。食品の安全性に関して、基礎的な知識を身に付け、自ら行動できるよう食育を推進するとともに、食品事業者に対して、適切な食品表示がなされるよう、普及・啓発を図ります。

なお、この部分の最後の行に「普及・啓発」とありますが、本市が食品事業者に対して行っているのは、「周知・指導」となりますので、この部分の表現「普及・啓発」を「周知・指導」に改めさせていただきますので、お手数ですが修正をお願いいたします。

続きまして、37ページをご覧ください。

基本方針4「地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進」についてです。こちらは、地産地消の説明について、冒頭に記載している地産地消のメリットやもたらす効果の記述をより分かりやすいものとなるよう修正いたしましたので、冒頭のみを読み上げます。

地元で生産された農産物等をその地域で消費することは、新鮮で栄養価が損われず味の良い食材を求める消費者ニーズに適するものであり、また、生産や流通の過程が分かりやすく、生産者と消費者の顔が見える関係の構築に繋がります。これにより、食の原点「農」について親近感を持つとともに、消費者自らが生産情報等を認識し、安心につながります。

このように修正をしております。そのほかの記述は、前回から変更はございません。

続きまして、44ページをご覧ください。

44ページの下段、指標⑩「食育に関する基礎知識を有する人の増加」についてです。こちらは、第2次計画から継続した指標となりますが、数値となる取り組み、「ひらかた食育Q&A」の見直し作業を、枚方市食育推進ネットワーク会議にて行っている最中であったため、前回の審議会資料では調整中となっていた部分になります。今回、新たに記述させていただきましたので、説明させていただきます。

乳幼児期から高齢期まで、生涯にわたって健やかな食生活を実践するためには、食育に関する正しい知識を習得することが大切であることから、食に関する基礎的な問題集「ひらかた食育Q&A」の参加者数を用いて評価します。第2次計画では、「ひらかた食育Q&A」を大人用と子ども用の2種類作成し、対象者を大人と小学5年生としていましたが、第3次計画では、基本目標に「子どもから高齢者まで生涯を通じた食育の推進」を掲げ、対象者を幼児から高齢者まで拡充し、各ライフステージに応じた4種類の「ひらかた食育Q&A」を作成・配布します。これにより、広く食育に関する情報発信を行い、食育に関する基礎知識を有する人の増加を目指すものです。

目標値につきましては、ライフステージごとの4種類の「ひらかた食育Q&A」の1年当たりの合計配布人数といたしまして、1万2,000人と設定いたします。主な取り組みにつきましては、保育所(園)・幼

稚園・認定こども園・小中学校等と、市内のイベントや講座などにおいて「ひらかた食育Q&A」を広く配布するものとします。また、その他の関係団体への周知を行い、活用していただけるよう働きかけを行う予定です。

続きまして、46ページをご覧ください。

このページは、修正部分の網掛けが漏れておりましたので、差し換えのページを1枚挟んでいた部分になりますので、お手数ですが、挟み込んでいる資料をご覧ください。

下段⑭「地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加」についてです。この指標は、第2次計画から継続した指標となりますが、前回の審議会では、目標値80%に対して、現状地が59.7%であり、目標達成できなかった理由として、農業関係者やボランティア等の地域人材等が減少していることが要因と考えられ、今後の減少傾向はやむを得ないことから、目標値を80%から70%に変更することをご説明させていただきました。しかし、再度検討しました結果、目標達成できなかったのは、地域人材等の減少だけが要因ではなく、行政としましても、地域人材等に関する情報発信が不足しており、小中学校での活用に繋がらなかったことも要因の一つと考えられますので、今後、行政にて食育講座などを実施している企業やボランティア団体などの地域人材に関する情報発信を行うといった取り組みを強化することで、これまでと同じ目標値80%に戻し、目標達成を目指すものに修正いたしました。

このことから、説明文、最後の4行の部分と目標値の値を修正しています。

次に、47ページをご覧ください。

指標⑮「食育推進に関わるボランティアを養成した人数の増加」についてです。審議会委員からいただいたご意見などを踏まえまして、数値の把握方法を一部修正しています。

中段の現状値と目標値の表の右側の※印の網掛け部分をご覧ください。前回の資料では、健康づくりボランティア講座及びいきいきサポーター養成講座等の参加者の積み上げ実数と記載しておりました。しかし、健康づくりボランティアの中には、養成講座の修了者だけでなく、自らの意思で入られ、養成講座修了者と同様の活動をされている方もいらっしゃいますので、そのような方も数字に含めるため、※印網掛け部分のとおり、目標値は、平成30年度から平成35年度の健康づくりボランティアの養成講座修了者及びその他新規活動者数及びいきいきサポーター養成講座の参加者数の積み上げ実数に修正をいたしました。

なお、指標名に、養成した人数の「養成」という言葉を残しておらずのは、「養成」という表現をなくし、食育推進に関わるボランティアとしてしまいますと、ボランティアの範囲が非常に広がってしまい、自主的に活動され、市が関与できないボランティアとの境界が曖昧になってしまうことから、市が養成したボランティアを基本としつつ、自らの

意思で健康づくりボランティアとして新規に活動される人を含めるとい
う考えを分かるようにするために「養成」という表現を残したままにし
ております。

次に、49ページをご覧ください。

下段の指標⑳「農業体験に参加する人の増加」についてです。

まず、指標名ですが、これまでは「農業体験を経験した人の増加」と
しておりましたが、表現を精査し、「農業体験に参加する人の増加」に改
めました。

また、主な取り組みについて、これまで農業ふれあいツアーの実施の
みとしておりましたが、再度、担当課と協議・検討しました結果、農業
者と小学校が連携して実施している「食農体験学習」の参加者も含める
ことにし、現状値・目標値の数値を修正するとともに、主な取り組み欄
にも食農体験事業を追記しております。

最後に、削除した指標が1つございますので、ご説明させていただきます。
参考資料としてお配りしております、A3サイズの参考資料をご
覧ください。この資料は、前回の審議会で資料としてお配りしているも
のと同じもので、本日の資料1の中の50ページの修正前に当たるペー
ジになります。

前回の審議会では、指標⑦、黒く枠取りをしているところですが、指
標⑦「中学校給食の喫食率の増加」を新規の指標と設定し、目標値を50%
とすることをご説明させていただきましたが、再度検討した結果、中学
校給食の喫食率を増やすことが食育の観点から本当に望ましいと一概に
は言えないことから、この指標を削除したものでございます。これは、
普段も昼食をコンビニのおにぎりやパンだけといった偏った食事で済ま
す生徒が、給食を食べるようになると、食育の観点から望ましいと言え
ますが、自宅で作ったお弁当を持参してきている生徒にとっては、今が
望ましい状況と言えます。このように、生徒の状況によっては、改善と
なる場合もありますが、中学校給食の喫食率を上げることが一概に食育
推進に繋がるわけではないという考えにより、この指標を削除したも
のでございます。

前回の審議会以降に、内容が変更となった点は以上になります。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

春木会長

ありがとうございました。では、ただいま事務局から説明がありまし
た「第3次枚方市食育推進計画（答申案）」について、ご意見、ご質問等
ございましたらお願いいたします。

井上委員

27ページの図の「実践の輪」を広げるの「輪」が上の文章中の「実
践の環」と漢字が違っているので、どちらかに統一した方が良いのかな
と思うのですが。

事務局	<p>申し訳ありません。正しくは、本書記述の中にあります「環」のほうです。申し訳ありませんでした。修正させていただきます。</p>
春木会長	<p>環境の「環」ですね。</p>
事務局	<p>はい、環境の「環」の方です。</p>
春木会長	<p>それは、なぜでしょう。この車偏の「輪」でも良いかと思いますが、どうでしょうか。輪を広げるっていうときは大抵、この車偏の「輪」を使いますね。「環」は、多数にわたって輪を組んでいくというときに使うものかと思いますが、国語的にどちらなのか調べてもらえますか。それか何か理由があってこの「環」になったのですか。</p>
事務局	<p>国の計画を分かりやすくまとめたリーフレットの中に、この「実践の環」の「環」、循環の「環」を使った表現が用いられておりまして、それに合わせるような形で考えていたのですが、もう一度、文字の意味も踏まえまして検討させていただきます。</p> <p>ありがとうございます。</p>
春木会長	<p>では、図の「実践の輪」、車偏の「輪」と、文章中の「実践の環」、循環の「環」の漢字をどちらかに統一するという事で、よろしく願います。</p> <p>他にございませんか。前回、委員の皆様から随分ご意見をいただきまして、事務局がそれらを再度検討した上で、修正され、最終案として出されておりますので、細かなことでも結構ですので、お気付きの点がありましたらお願いいたします。</p>
谷委員	<p>47ページのボランティアの指標ですが、ここは、現状値は0で、目標値は450人、このように書かれていますが、具体的にこのスキルアップをするために、どういうことを、どこで、例えば、生涯学習市民センターでされるのか、保健所がされるのか、そのあたりを確認したいのですが。あと、現状の人数が0となっておりますが、前回の審議会では、何人かはいらっしゃるということをお聞きしたかと思いますが。</p>
事務局	<p>まだ現状値が0、「一」とさせていただいている点につきましては、このボランティア養成講座などは、これまでも実施している取り組みでありまして、ボランティアとして既に活動をしていただいている方は、多数いらっしゃる状況なのですが、この第3次計画の計画期間が来年度平成30年度から実施になりますので、来年度以降、養成した人数を積み上げていくような形で考えております。</p> <p>あくまでも、計画期間の中で養成した人数というのを数値にしていこ</p>

保健センター 栃川課長	<p>うということで、現状値は0とさせていただいております。</p> <p>具体的な講座の内容につきましては、保健センターの栃川課長から説明をさせていただきます。</p> <p>保健センターの栃川です。先ほどご質問をいただきました、健康づくりボランティア講座に関しましては、保健センターで実施させていただいております、市民の皆様へ広報で周知し、年間約10日間の勉強会をさせていただきます。その全日程を修了された方に、健康づくりボランティアとして登録をしていただきまして、地域活動に参加していただいているということになっております。</p> <p>いきいきサロン健康づくりサポーター養成講座に関しましては、現在、各地域の「いきいきサロン」で活動していただいている校区福祉委員会に対して、センターでこういう健康づくりの講座をやるということを周知させていただきます、2日間の養成講座をさせていただきます。内容に関しましては、運動・栄養・歯（口腔機能）等々のお話をさせていただきます、活動されている「いきいきサロン」で高齢者の方等に対し、活動に生かしていただけるような内容になっております。</p> <p>以上です。</p>
谷委員	<p>「いきいきサロン」というのは、今、福祉委員会が各校区でやっている、あの「いきいきサロン」という受けとめ方でいいのですか。</p>
保健センター 栃川課長	<p>はい。そのとおりです。</p>
谷委員	<p>そこへ、こういう講座を設けますということですか。</p>
保健センター 栃川課長	<p>はい。周知をさせていただきます、各校区からこちらに来ていただいて、講座をさせていただきますということになります。</p>
谷委員	<p>それは、もう既にされているのですか。</p>
保健センター 栃川課長	<p>はい。既にしております。</p>
谷委員	<p>先ほどおっしゃった全10回の講座ですか。</p>
保健センター 栃川課長	<p>10回は、健康づくりボランティア養成講座のことで、1年間に10回の講義があるということになっております。健康づくりボランティア講座に関しましては、昭和58年から引き続きやっておりますので、年数に関しては長くやらせていただいております。</p>
谷委員	<p>いきいきサロンでやりますということであれば、いきいきサロンでも、</p>

	もう既に実施されているのですか。これからですか。
保健センター 栃川課長	既にさせていただいております。
谷委員	この辺は、福祉委員の人や民生委員の方が中心でされているようですが、例えば、社会福祉協議会とか、そういったところと連絡は取り合っ てされているのですか。
保健センター 栃川課長	社会福祉協議会の小地域ネットワーク活動の一環の充実ということで、社会福祉協議会と保健センターとのタイアップということになって おります。校区福祉委員会の役員会に、まず、こちらの趣旨のご説明を させていただいて、当日来ていただける方を校区福祉委員会から推薦い ただいているということになっております。
谷委員	分かりました。
春木会長	このボランティアの指標は、前回の審議会でも話題になって、現状値 0というのが、やはり、これで見ると気になりますね。10回シリーズ の健康づくり養成講座はこれまでずっとしてきて、毎年修了者はいらっ しゃるわけですね。その人たち、一定人数はプールされているわけ ですね。実際は、活動されている方と活動されていない方に分かれる とは思いますが、理想は、継続的に活動されている人の数値を書くこと が望ましいのですが。それが、見極めができないなら、一応、これまで に実績としての修了者数の合計数が入っていいのかなと思いますが。 前回の会議でも、色々と議論になりましたが、やはり、今まで実績が あるのに、0ですよと言っているみたいになるのが、気になります。年 間、新たに450人養成しますよというのは、それはそれでいいのです が。
事務局	これまで養成された方の人数に、これから計画期間の間に450人新 規で増やしていきますよということで目標値を450人としているわけ ですが、今、既に活動している人数、その方々はこれまで養成講座など を受けて活動していただいている方ですが、毎年、やはりボランティア 活動を続けられないということでやめられる方もいらっしゃる中で、や めていく方と、新規で450人を追加していくということになりますと、 純粹に450人追加された数にはならないため、新たに養成していく 450人を目標値とさせていただいております。
春木会長	いえいえ。現状値は別に450人を超えていなくていいのですよ。
事務局	今、活動されていらっしゃる方、現状値にプラス450人が目標値と

春木会長	<p>いうことでおっしゃっていただいているということによろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>そうです。年間450人いくのですか。</p>
春木会長	<p>年間ではなくて、これは、計画期間内ですので、この平成30年度から平成35年度までの間に450人を増やすということになっております。</p>
事務局	<p>ということは、1年当たり90人ベースですね。</p> <p>実際に、毎年ボランティアとして活動されている方の中に、やめられる方、新たに始められる方という、増減が毎年実人数として発生している状況です。現状の人数を出して、それに純粋に450人を追加することは可能ではありますが、実際に、平成35年度までにやめられている方もいらっしゃる関係で、純粋に平成35年度のその時のその人数の方が活動しているという数字にはならないことになってしまいます。そのあたりの整理が難しかったので、450人、新たに計画期間内に養成しますという形で、現状値を0人ということでスタートしたいなと思っているのですが。</p>
春木会長	<p>そうすると、年間90人ぐらい養成していけるという見込みでの話ですよ。だけど、枚方市としては、かなりボランティアの活動をされている、他市に比べて活動が活発であると私は認識していますが、現状値は、あえてそういう養成をしていないみたいになってしまいますよね。</p>
谷委員	<p>先ほど、地域でのいきいきサロンや保健センターでされる養成講座で修了者を増やしますということですが、そういう、今まで修了された方、恐らく修了証書を渡されているかと思うのですが、0というのは、枚方市がボランティアでこういったことを全くやっていなかったと、だから、新たにはじめて450人にしますという受けとめ方を、私はしています。「いきいきサロン」はかなり校区ごとにされていると思いますが、先ほどの話ですと、そういう方を、何名かずつ呼んでやっていますよということですよ。そうすると、現状値が0というのは、ちょっと理解できません。要は、現在、何名かいらっしやって、それを450人にしましょうということであれば分かるのですが、そういうことじゃないですよ。</p>
春木会長	<p>そうですね。食生活改善推進員さんも、全員が活動されているわけではないけど、一定数活動されているということは、前回の審議会終了後に立ち話で確認したのを思い出しました。そのベースのデータがあった</p>

事務局	<p>上で、プラスこの450人という数字は、見込みがそうであれば、これが生きているのでいいのですが。</p> <p>だから、現状値が、例えば、200人でいったとしたら、目標値が650人ということになりますよね。プラス450人。</p> <p>そうしてしまいますと、計画期間終了となるときに、650人、実際にその中から今後5年間でやめられる方もいらっしゃいますので、実際に活動している数とイコールではなくなってしまうという懸念があります。今、いらっしゃる実人数に、これから養成する450人を足すのですが、5年間の中でやめられる方もいらっしゃいますので。</p>
春木会長	<p>それなら、この現状値はなくして、新規養成目標値として450人という表記もありかなと思うのですが。</p>
事務局	<p>分かりました。では、現状値が0ということではなくて、これからカウントしていくという意味で「—」と入れさせていただいていたのですが、そのように誤解を招いてしまう可能性もございますので、現状値の表現をもう一度事務局で検討させていただきます。</p> <p>ありがとうございます。</p>
春木会長	<p>よろしくお願いします。</p> <p>他に、ご意見等はございませんか。色々な食育推進の活動が実行しやすいような形でこの第3次計画を作っていきたいなと思っています。第3次計画ですから、そろそろ幾つかの実績を出していきたいところなので。</p>
井上委員	<p>また細かいのですが、53ページの下から4行目の「障害者（児）歯科健康診査」と括弧で「(児)」を入れているのであれば、児童生徒期から矢印を引っ張ったほうが良いですし、障害児を学校歯科で診てもらふということであれば、線はこのままで、「障害者（児）」の「(児)」は消したほうが良いのかなと思いました。「(児)」の言葉の違いが、すみませんが、よく分からないので、このままで良かったらこのままで良いのですが。</p>
保健センター 梶川課長	<p>おっしゃっていただいたように、「障害者（児）歯科健康診査」につきましては、保健センターで追記させていただいた分で、歯科医師会にお世話になっております「障害者（児）施設」に対する歯科健康診査のことを指しておりますので、そちらで統一していきたいなと思っております。よろしいでしょうか。</p> <p>表記としては、「児童生徒期」まで矢印を伸ばさせていただいて、「障害者（児）施設歯科健康診査」という表記に変えさせていただきたいと</p>

	<p>思います。</p>
春木会長	<p>分かりました。「(児)」でよろしいですか。「障害児・者」並列はどうですか。</p>
保健センター 栃川課長	<p>うちの事業名が、「障害者(児)施設歯科健康診査」とさせていただいておりますので、すみませんが、事業名の表記でよろしくをお願いします。</p>
春木会長	<p>分かりました。井上委員、よろしいですか。</p>
井上委員	<p>はい。</p>
春木会長	<p>では、他にございませんか。</p>
田中委員	<p>44ページの⑪で、「ひらかた食育Q&A」を、今は大人用と小学校5年生用になっているけれども、今回、食育推進ネットワーク会議で各ライフステージに応じて4種類作成すると書いてありますが、これは、幼児向けとしては、大体4歳・5歳児が対象になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、配布させていただいている「ひらかた食育Q&A」は、小学校5年生用と大人用の2種類になるのですが、それに、さらに、年長に当たる5歳児を対象とした幼児用の問題を1つ追加で作成するのと、あと、小学生と大人の間、中高生用ということで、中学2年生を対象にした問題を作成しようと考えております。</p>
田中委員	<p>あと、この基礎知識を有する人をどういうふうに判断されるのでしょうか。</p>
事務局	<p>この「ひらかた食育Q&A」自体が、食育に関する基礎知識を習得できる問題集になっておりまして、問題と解答&解説、さらに、その年代に知っておいてほしい食育の情報をコラムとして掲載した一体型になった啓発物を4種類、ライフステージごとに作成する予定としております。</p> <p>それを、行政や各関係団体を通じて対象者に配布させていただいて、実際に手にとってそれを見ていただくことで、食育の基礎知識を増やすことに繋がると考えております。</p> <p>数値としましては、「ひらかた食育Q&A」の配布数、4種類ございますので、4種類の年間の合計の配布数を目標値としまして、大体12,000人を想定しております。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
田中委員	<p>保育園とかは、配布をすれば良いということでしょうか。</p>

事務局	<p>はい。もちろん、実際に実施していただくことを前提に想定はしていますが、あくまでも、配っていただいて、各自で解いていただくことで知識の習得に繋がると考えております。それぞれの園や学校の状況もありますが、本当は、授業などで活用していただくと、より望ましいかと思っておりますので、できるだけ授業等で活用していただけるように、周知の際にお願いはさせていただこうと思っております。数値としましては、配布数でいきたいと考えております。</p>
春木会長	<p>幼児から成人まで、ライフステージがいくつかありますよね。4種類の発達段階に応じた「ひらかた食育Q&A」を作るということで、44ページの主な取り組みに書いているところですが、具体的に書かれている施設は、幼児から児童生徒及び市内のイベントや講座においては、成人ということになるのですよね。</p>
事務局	<p>はい。幼児用につきましては、保育所（園）、幼稚園、認定こども園などに配布して、小学生用は、今、既に小学校5年生に現行の「ひらかた食育Q&A」を配布しておりますので、継続して小学生用は5年生を対象にと考えております。</p> <p>また、中学2年生用を、中高生用というくくりで作成いたしまして、中学2年生に配布することを考えておりますが、年に数回、行政と高校の養護教諭が行う会議の場がございますので、今後は、高校でも活用していただけるような周知をしていきたいと考えております。</p> <p>大人用につきましては、市内のイベントや講座と、それぞれ食育の関係団体さんが、ご自身の団体に持ち帰っていただいて、会員さんに配っていただいたり、それぞれの団体さんが実施する催しでも活用いただけたらと考えております。</p>
春木会長	<p>そうすると、小中高、高校も入るのですよね。</p> <p>これだと、小学生と中学生だけと読者は思ってしまうので、高校生も対象になるのですよね。</p>
事務局	<p>一応、高校にも配布の働きかけをさせていただこうと考えております。小中学校等の「等」のところに、高校を含めた形で考えております。</p>
春木会長	<p>この「等」が高校も入っていますよという意味なのですね。</p>
事務局	<p>高校は、これから働きかけをしていくので、どこまで活用していただけるのか、正直、未知数なところもありますので、「等」の中に含めさせていただいております。</p>
春木会長	<p>本文には、対象者を幼児から高齢者まで拡充し、4ステージというこ</p>

事務局	とで書いてあるから、両方読んだら分かるということですね。
春木会長	そうですね。
谷委員	分かりました。では、他にありませんか。
春木会長	<p>しつこいようですけど、先ほどの47ページのボランティアの件ですが、それぞれのセクションで実施されているわけですね。例えば、社会福祉協議会や保健センターとか。既にもう10回保健センターでやっていて、社会福祉協議会で「いきいきサロン」等でもやっていますよということですが、要は、例えば、保健センター、それから社会福祉協議会、健康総務課で、連携を取りながら、個々にされているというのは先ほどの説明で分かりましたけど、要は、連携を取りながら、そのあたりをこういう立派な資料をこれだけ苦労されて作られているわけですから、やはり、関係部署との調整を、十分お願いしたいと思います。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。ボランティアさんたちの交流なんかもあったりすると、お互い「そういうこともしたらいいね。」とか、色々アイデアが出てきたりしますよね。</p>
谷委員	要は、連携がないと。
春木会長	<p>そうですね、横の繋がりが大切ですね。それはまた、保健センターが、健康リーダーさんたちに向けて発信をされて、取り組んでいただくということもできるかなと思います。強固に繋がっていくように、それぞれがバラバラやっているのではなくて、みんなの活動が一定、整っていくという形になれば良いかなと思います。谷委員、ありがとうございます。</p> <p>では、その他にありませんか。何回も事務局との話し合いでは、第3次計画では、クリアな成果を幾つか出さないといけないと言っていますので、これだけはできそうだねというのが幾つか、各委員、指折り数えていただいて2つ3つは確実にいけそうだよねということで、第3次計画に取り組んでいただければいいかなと思います。そのあたりも含めて、お目通しいただければと思います。</p> <p>谷委員、金崎委員、いかがですか。よろしいですか。東尾委員、よろしいですか。西谷委員、よろしいですか。有川委員、よろしいですか。</p> <p>よろしいということで、次にいっていいですか。実際、次年度に具体的な施策の実績が挙がってきますので、またその段階で気付かれたことはどんどんご意見いただければと思います。事務局からの説明もありましたように実践に繋がる食育ということで、これまでも、別に大風呂敷を広げてきたわけではないのですが、市民の方たちが健康づくり、食生活管理の中で必要としているような事柄、つまり、やりたい、そうしな</p>

事務局

やいけないよというのは、頭では分かっているけれども、具体的な日々の食生活に、なかなか反映できないという方が圧倒的多数だと思います。そのあたりで、市民の目の届くところ、耳に入っていくような手段を使って、気軽に、気楽にできる、やろうと思えばすぐにできそうなアイデアを提供しながら、市民一人ひとりがご自身の食生活管理を改善していくというところに繋げていくのが、第3次計画になります。第1次計画、第2次計画を踏まえて、第3次計画の食育推進を確実に、着実に進めていきたいと思っています。また、現在出ています委員の皆様方のご協力で作ってきているこの食育計画ですので、委員の皆様方も適宜、ご支援いただきながら、進めていきたいと思っています。

では、本日いただいたご意見、数値を修正する手続きは、私、会長と副会長一任で対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、案件2「その他」について、事務局より説明をさせていただきます。

案件2「その他」について、ご説明させていただきます。

資料2をご覧ください。こちらは、第3次枚方市食育推進計画（案）の概要版となります。

前回の審議会でご報告させていただきました、12月20日から実施するパブリックコメントにおいて、先ほどの資料1「第3次計画（答申案）」とあわせて使用するものでございます。

内容を簡単にご説明させていただきますので、資料をお開きください。

まず、「1. 計画策定の背景」をご覧ください。計画の策定につきまして、国の動き、府の動きを記載しております。その下には、食育の定義と、国の第3次基本計画についての説明を記載しております。

次に、その下の「2. 計画の変遷」をご覧ください。

先ほど、案件1でご説明させていただきました、資料1. 第3次計画（答申案）の中の枚方市食育推進計画の変遷の部分を抜粋したものととなります。

続きまして、中央上段の「3. 第3次計画の特長」ですが、第3次計画から新たに設定した基本方針と指標の主なものを特長としてまとめております。

その下の「4. 計画の体系」及び、右横の「5. 基本目標」については、資料1「第3次計画（答申案）」から抜粋したものととなります。

裏面の裏表紙には、指標の一覧を記載しております。

概要版につきましては、以上でございます。

最後に、今後のスケジュールについてですが、本日が、今年度最終の審議会となります。本日いただいたご意見を反映したものを、会長、副会長に最終確認いただき、答申をいただきます。その答申につきましては、委員の皆様にも送付させていただきます。その後、12月20日から来年1月12日まで、パブリックコメントを実施し、その後、庁内会

	<p>議を経て、3月に計画策定となります。委員の皆様には、最終の計画も送付させていただきます。</p> <p>また、委員の皆様の任期につきましては、平成30年11月30日までとなっております。しかし、来年度平成30年度は、第3次計画がスタートしたところで、取り組み実績が出ておりませんので、今のところ、審議会の開催は予定しておりません。任期が切れた後、平成31年度に新しく委員の委嘱を行う予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>案件2.「その他」につきましては、以上でございます。</p>
春木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまのご報告ですね。この概要版は、これは市民に配布されるものになりますよね。</p>
事務局	<p>はい。パブリックコメントで使用するものでございます。</p>
春木会長	<p>市民の方たちが目にされる、骨子ですね。第3次計画の骨子ということで、委員の皆様方とともに検討してきましたことが提示されていると思うのですが、大変フォントが小さいので、文字のフォントがかなり詰め詰めになっている感じがしますね。これでも一生懸命削って削っての結果だとは思いますが、いかがですかね。ご高齢の方たちには、ちょっと読みづらいなあと思うのですが、これ以上、要約は難しいですかね。</p>
事務局	<p>もう少し文字数を減らすなど、読みやすくなるよう検討させていただきます。</p>
春木会長	<p>一般の人たちは、細かい文字を見たら、表のこの大きな表題を読むだけになってしまうと思います。それだけでも、一定の成果はあるとは思いますが、内容が盛りだくさんで、かなり文字数のフォントが小さいので、ご高齢の方は「何だろう、これ。」と思うかもしれないですね。内容は、しっかりと委員の皆様方とともに検討してきました事柄が、分かりやすく示されているのですけれども。</p>
谷委員	<p>これ、市民に配るということは、広報に挟み込むということですか。</p>
事務局	<p>パブリックコメントで使いますので、ホームページにアップするのと、各施設、枚方市役所の受付や保健所、生涯学習市民センターなど、各施設に置くものになります。</p> <p>市民用には、計画のダイジェスト版をこれから、別で新たにつくる予定にしております。食についての色々な情報をコラムという形で分か</p>

	<p>りやすく載せたものをつくる予定です。</p>
谷委員	<p>このまま配ったって、見ませんね。もうちょっとマンガチックに、懇切丁寧には書かれておりますけど。</p>
春木会長	<p>この概要版、そしたら、食育活動をしている人たちが持つのですかね。</p>
事務局	<p>いえ、一般の市民の皆さんに見ていただいて、第3次計画に対するご意見をいただくというものになります。</p>
春木会長	<p>そうですね。これだとちょっとしんどいので、もうちょっと、まとめられるかどうかの努力をお願いします。</p>
事務局	<p>文字数を減らすように、再度検討させていただきます。</p>
春木会長	<p>そうですね。「2と5あたりが、目がちかちかするわ。」とおっしゃる方が結構いらっしゃるように思いますので、もう一工夫して、割愛できるところは割愛をしていただくということで、よろしく願いいたします。</p> <p>他に、全般を通してのご意見やご質問はよろしいでしょうか。</p> <p>では、第3次計画策定に係る最終の審議会ということで、本日、健康部の白井部長からご挨拶があります。白井部長、よろしく願いいたします。</p>
健康部 白井部長	<p>健康部長の白井でございます。いつもどうもお世話になりまして、ありがとうございます。</p> <p>本日、先ほどもございましたけれども、本日が今年度最後の審議会ということになりますので、一言御礼申し上げます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、また、非常にタイトなスケジュールにもかかわりませず、本市の第3次食育推進計画の策定にご尽力いただき、誠にありがとうございます。この間、計4回の審議会において活発なご議論をいただくとともに、第3次枚方市食育推進計画の答申をおまとめいただきましたことを、心より御礼申し上げます。</p> <p>これまで、第1次計画、第2次計画と進めてまいりまして、いよいよ第3次計画となります。これまでの食育推進を次の段階へとステップアップさせ、明確な成果が出せるよう、より一層取り組みを推進してまいりたいと考えております。</p> <p>委員の皆様におかれましては、お一人お一人や、所属されている団体などのそれぞれのお立場で、本市の食育推進に引き続きご指導、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。</p> <p>先ほど、春木会長からもございましたとおり、本日いただきましたご</p>

春木会長	<p>意見につきましては、今後、会長、副会長に一任ということですので、春木会長、中村副会長に最終確認の上、答申をいただくという予定としております。</p> <p>しかしながら、皆様からいただきましたご意見等を真摯に受けとめ、今回の計画策定だけではなく、今後の食育事業に活かしてまいりたいと考えておりますので、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>部長、ありがとうございました。</p> <p>各委員、それぞれのテリトリーで色々と食育に関する活動をしていただいていると思いますので、何度も申しますが、第3次計画で何らかの成果をといるところに来ていますので、ぜひ、出来上がった食育推進計画を確認いただいて、実施をされている事柄のこれと似ているよねということもあろうかと思っておりますので、できるだけ計画の成果が数字として出さないことには、他の方々にはご理解いただけないものですから、なかなか苦しい、難しいところではありますが、日頃の活動が、何らかの数値となっていくような努力をしていただいて、市の食育とあわせて、成果のある枚方市の食育推進が進むことを願っております。</p> <p>よろしく願いします。</p> <p>これをもちまして、本日の食育推進計画審議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>
------	---